

担当所属名：市民健康部健康づくり課

会議名：令和7年度長崎市献血推進協議会

場 所：長崎市役所 13階中会議室

日 時：令和8年1月20日（火） 14：00～15：50

議 題：1 会長及び会長職務代理の選任について
2 長崎県の血液事業について
3 日本赤十字社の血液事業の現状について
4 長崎市の血液事業について
5 その他

審議結果

出席委員：天本委員、岩満委員、奥村委員、柏木委員、高田委員、辻委員、中谷委員、平尾委員（13名中8名出席）

関係機関：長崎県薬務行政室 山崎薬剤師
長崎県赤十字血液センター 木下所長、藤本事業部長、出口献血推進課長、
橋口浜町出張所長、中村推進一係長

事務局：市民健康部 島村部長
健康づくり課 榎田課長、皆良田係長、牧野

- (1) 委員の互選により中谷会長及び会長の指名により天本会長職務代理が選任された。

会長（あいさつ）

- (2) 長崎県の血液事業について、長崎県薬務行政室山崎薬剤師が説明をおこなった。

委員

福田地区のフレスポで9月28日に献血をしてきた。PTAの保体部の方が受付をしており、予約が61名だと聞いた。昔は福田小学校と福田中学校のPTAが合同で献血をしていたが、今は福田中学校のみの活動になっていると赤十字の担当の方から聞いた。長崎県内を見渡

してみても昔は学校単位での献血活動が多かったが、今は学校単位で献血を行っている学校が非常に少ないとのことだった。長崎県内で、小学校、中学校のPTAで献血活動をしている学校はどのくらいあるのか。また、福田中学校は献血活動をずっと続けており厚生労働大臣から感謝状をもらっているのだが、福田中学校の保護者の意識が特別に高いわけではない。ただ続けているから献血に行ってみようかなという感じなので、しっかりアピールしてぜひ継続して行ってほしいと思っている。長崎県内で献血を行っている中学校がどのくらいあるのか、福田中学校での献血が何年続いているのか教えてほしい。

血液センター

福田中学校には毎年献血に協力してもらって感謝している。県内で学校単位で献血を行っているのは、すぐに思い当たらないので福田中学校だけの可能性が高い。以前行っていたところはいくつか思い当たることが続いておらず、残っているところは非常に貴重である。毎年、育友会の保体部の方が献血の担当になって中心で呼びかけなどを行っている。最近9月に実施しているが、その2か月ほど前に実際に血液センターに保体部の役員の方が献血や血液のことを勉強しに来てくださっている。献血に協力していただいた上に、さらに保護者や先生方に声をかけてくださるなど、非常に熱心にご協力いただき、助かっている。そのような輪をまた他の学校でも広げていけたらと思っている。

委員

高校での実施はないのか。

血液センター

高等学校も訪問できればと思っている、実際にご協力いただいている。県の資料の19ページに、令和6年度高校別献血者数というのが載っている。これは協力いただいた生徒の数を記載している。「校内」というのは献血バスが学校を訪問したときに協力していただいた人数で、「校外」というのが、商業施設など学校の外での生徒の協力数を示している。昭和の時代は全校の協力してもらっていたと聞いているが、令和6年度は校内献血が13校というところで、令和5年度よりも2校減っている。人数も令和5年度よりも減っている。しかしながら、長崎西高校は令和5年度からだったと思うが数十年ぶりに復活している。このように今後も粘り強く献血に協力していただける学校を増やしていきたいと思っている。

委員

商工会議所は会社経営者の集まりなのだが、企業に対する啓発は行っていないのか。

血液センター

企業の皆様にも献血に協力していただいている。それぞれ担当者が、各企業を訪問し、献

血の状況などを説明しご協力をお願いしている。また、通常の献血のお願いとは別に、時間をいただける企業に関しては献血のセミナーという形で説明会もさせてもらっている。一般企業でセミナーをさせてもらっているところは非常に少ないが、引き続き継続していきたいと思っている。ご連絡いただければ、説明にうかがうので検討していただきたい。

- (3) 日本赤十字社の血液事業の現状について、長崎県赤十字血液センター木下所長が説明をおこなった。

委員

大変勉強になった。これを若い時に知っていれば、もっと献血をしたらろうと反省している。今の若者が献血に行かないということで、どうしたらよいか、手立てを持っておく必要があると思う。私は今の高校生はしっかり教えたら関心ある子もいると思う。なので、高校の学活の時間や保健体育の時間に位置付けてもらうとよいのではないかと。例えば、薬物乱用防止教室は中学校3年間の中で1回は必ず聞くと決まっている。そして高校でも1回は聞くと位置づけられている。同じような形で献血も位置づけをしっかりともらわないと、若い人たちが関心がないまま、大人になってしまうのではないかと考えているが、どうか。

血液センター

学校に説明に行っても時間がないといわれることが多い。先ほども話したが、高校に関しては各高校に訪問して、校内献血は難しくても、話をする時間をもらえないかお願いしているが、年度で時間割が決まっているとの理由で断られることが多い。教育委員会や県と協力して粘り強くやっていきたいと思っている。薬物乱用防止教室等の際に少し献血の話を入れてもらうという話もあるが、なかなかうまくいっていない。最近の学校はがんとアレルギーと性教育に力を入れてやっているのだから、例えばがんの中で、治療で輸血するから献血の話も入れてほしいとお願いするなど、あの手この手でやってみているがうまくいっていないのが現状。今後も頑張っていきたい。

県

薬物乱用防止教室は県の各保健所の薬剤師が行っているが、薬物乱用防止教室の最後の5分から10分をもらって献血の話をさせてもらうことはある。ちょうど献血も薬物乱用防止どちらも薬剤師の仕事なので、同じ時間でさせてもらうことはある。

委員

あの手この手を使われていることが分かった。中学校しかわからないが、学校現場は忙しく、1時間とるのはなかなか厳しい。例えば、学活の時間などでもすることは決まっており、そこに入れ込むのは難しいが、保健体育の授業だったら関連があるのでできるのかなと思

う。そのように、この教科と関連が強いのでというふうに、体育や家庭科の授業の先生とタイアップという形だと時間が確保しやすいように思う。それから、全部の学校を回るのは難しいと思うので、拠点校を作ってその学校に対してプレゼントを渡す等、意識づけを行い、実績を作ると継続しやすいのではないかと。そして、拠点校から広がっていくのではないかと思う。

委員

私は病院に勤務しているので、確保していただいた血液を患者さんに提供する側で、このような努力があったのだとありがたく感じた。昨年度もお話を聞き、血液は確保できていると感じたが、本日を聞き、50代の方が頭打ちになってしまうというのはすごく大きな影響だと思った。私は50代だが、若い時は浜の町に遊びに行っていたのが渴いて献血ルームに行くということをよくしていた。自分には中学校、高校、20歳の子どもがいるが、献血ルームに行ったことないだろうと感じている。自分が若いころは献血ルームにすぐに行っていた記憶がある。しかし、そもそも今の子どもたちは浜の町よりも、駅前などで遊ぶことが増えている気がする。設備的なことで難しいのはわかっているが、老朽化など何かしらのタイミングで今の若い子たちが集まる場所への移転を考えてはどうか。今の子どもたちは「タイパ」の考え方を重視しているようなので、献血の重要さは感じてわざわざ献血ルームに行くというのは難しいと思うが、いる場所に献血ができる場所があれば行くのではないかと。また、先ほどの話のように教育の現場に献血を入れていくことも大事だと思う。自分がいま抵抗なく献血しようと思うのは、若い時から献血をしていたことが関係していると思うので、若い時からというのがポイントだと思う。

(4) 長崎市の血液事業について、健康づくり課榎田課長が説明をおこなった。

(5) その他

委員

今回初めて献血推進協議会に参加して献血の状況などいろいろ学んだことがあった。先ほどから高校生など若年層の話があったが、やはりデータを見ると20代、30代の献血者数が減ってきていることが分かった。私たち労働組合にはその年代の方が多くいらっしやるので、先ほど話に出た献血セミナーなどを労働組合の活動に組み込み、20代、30代の方に周知していくことで、今日私がしたような気づきを多くの方に持ってもらうことができ、献血者数を増やすことにつながるのではないかと考えた。

会長

高校生の時から献血を広げていく必要があると思った。高校生から1回してしまうと、2回目、3回目と続くことが多い。最初は不安があると思うので、1回してみないとわからない

い。私も 20 歳ごろから何回も献血をしていたが、1 回目するときは少し不安だった。しかしその後は、前と同じだと思え、何回もしてみようと思えた。だからいかに初めての人をどう献血につなげるかというのを考えていく必要があると思う。私も高校時代にほとんど献血のことを聞いたことがない。献血車が停まっていたことがきっかけとなり献血を始めた。高校時代からもう少し献血についてアピールをしておくとういように感じるが、どうか。もう少し、踏み込んでいってもらえればと思う。

健康づくり課

若年者の献血者数向上のためにということで、特に高校生に対するアクションは私たちもしていく必要があると思っている。私たちの方からアクションを起こす、例えば学校を訪問して献血の啓発をするということもカリキュラムの関係上難しいとのことだった。一番望ましいのは学校で全校生徒に対して一気に話すことだが、実現させるのは難しいということで、方法について一緒に考えていきたい。

委員

若年層からの献血ということで話があったが、長崎市の小学校は 100 パーセント薬物乱用防止教室をしていて、中学校でも行っている。薬物乱用防止教室は長崎市薬剤師会の学校薬剤師部会で行っている。指導するにあたって長崎県薬務行政室のフォーマットを使用させてもらっている。私は長年やっているので独自の資料を作成しているが、数年前に体験型の薬物乱用防止教室を実施するようになり、フォーマットを作成してもらって学校薬剤師が指導しているという現状がある。薬務行政室の方から、少しの時間、献血について組み込まないかというお話をいただいていたので、学校薬剤師部会にも相談しながらの話にはなるが、薬務行政室とタイアップしていけたらと思う。薬物乱用防止教室というのは、小学校中学校、高校というのがあって、私が北陽台高校を担当していたころには全校生徒に講演をするということもあったので、そういう機会を活用していけたらと思う。県と市と血液センターがタイアップしてやっていくとよいのではないか。また、先ほどお話しされた委員と同世代なので、発言に共感していた。昔は浜の町に遊びに行くときすごいなと思っていたが、今はアミュプラザやココウオークが中心になっている。実際に娘もアミュプラザやココウオークで遊んでいる。考えを柔らかくしてやっていく必要があると思う。草の根運動をしても成果が得られていない。会長がおっしゃったように 1 回行ってみると、次は娘を連れて行ったりしていたので、やはり 1 回目のきっかけを作ることが大切だと思う。若者がジュースを飲みに来る、それだけで変化していくと思う。

会長

薬剤師会とのタイアップについてどう考えるか。

健康づくり課

せっかくご提案いただきましたので、薬剤師会と情報共有を密にしながらより効果的なやり方を考え、やれるところからやっていきたい。

委員

今日初めてこの会に参加した。自分も若い時はよく献血をしていたので、献血は若い人がするのかなと思っていたので、イメージが違っていた。今の若い人たちもきっかけがあればいいのではないかと思った。その機会がないだけなのではと思う。

委員

市の献血の事業を見ていたが、この市役所で献血をするのに7回やって240人が少ないように感じる。それを変えるために、市役所で献血をするときはある程度呼びかけをする必要があると思う。庁内にポスターを貼ってもなかなかうまくいかないのではないかと思う。意識の問題だと思う。もう少し庁内全体で参加しやすい方法を考えていく必要があると思う。商業高校などの協力が少ないので、何か方法を考えていく必要があると感じた。

会長

それでは、本日予定していた議事と質疑応答を終了させていただく。